

街の中で働く

～働くことに戸惑っていた若者への就労支援の取組み～

雇用環境が厳しさを増す中で、若者たちは自分の進む道を探し求め、努力しています。若者の就業に対する意識という視点から、働くことの意味を考えます。

働くことに戸惑っている若者への就労支援活動を積極的に行っているNPO法人「アンガージュマン・よこすか」の島田徳隆事務局長から、同法人の活動や若者支援の取組みについて紹介していただきます。

商店街の中に

2004年4月にアンガージュマン・よこすかは横須賀市上町（うわまち）の商店街（上町商盛会）の中心に開設されました。以来現在に至るまで商店街と密接な関係を持ち続けています。当法人の事業の多くは商店街とのコラボレーションから成り立っています。

上町商盛会では商店街のサマーセールの集大成として、毎年7月に「灯ろう夜市」が行われます。歩道の真ん中に段ボールで作った灯ろうを並べ、夕方にはロウソクに火をつけ、各商店は趣向を凝らしてお客様をおもてなします。

灯ろうに使用する段ボールは酒屋さんが1年がかりで集めた焼酎の箱。それをカッターでくりぬいて灯ろうに仕立てます。2006年に1商店街120基で始まったイベントは2010年現在では3商店街300基弱になりました。ほぼ直線で300mにも及び歩道に一列に並ぶ灯ろうの様子は圧巻です。横須賀の夏の風物詩にもなりました。



<灯ろう夜市>

当法人の仕事は次のとおりです。およそ1カ月前から段ボールをくりぬき、灯ろうの形に組み立てて商店街に引き渡します。当日は花火やアイスクリームを振る舞ったり、イベントに呼ばれた踊り手のサポートをします。近年、一連の作業はほぼ当法人に委ねられており、お手伝いではなく主体的に関わっているといつてよいでしょう。

商店街とともに

商店街の次世代を担う若者たちがいないといわれる昨今、上町商盛会においても同様の課題に直面しております。そのため当法人に集う若者たちが商店街の様々な仕事を請け負います。最初は商店街のおっちゃんたちやおかみさんたちに圧倒される場面もありますが、慣れてくると難なく仕事をこなします。ちょっとした仕事でも大変有り難がられます。さほど大きくない商店街ですから、仕事の数も量も多くはありません。しかしながら、その一つ一つを体力のある若者たちが担うことが求められているのです。当初より仕事には賃金が支払われています。商店街も若者たちの育成に積極的に取り組んでいます。100年近く続く古い商店街ですから若者を育てる仕組みは綿々と続いており、当法人に来る若者たちや子どもたちをつかす離れず見守ってくれています。昨年末ようやく商店街にも青年部が結成され、当法人の若者たちと競いながら地域の活性化を担うことになりそうです。

事業をおこす

当法人では2006年5月に空き店舗を利用して書店＝「はるかぜ書店」を開きました。神奈川県との協働事業で、若者たちによる地域活性化の拠点としての機能を持たせました。開店以来現在まで、若者たちが主体となって運営しています。起業というと専門家からは厳しく指摘されそうではありますが、商店街の中で若者たちが働く研修を行う場として「商店を運営する」という発想は自然であると考えます。昔ながらの商店街では商店同士の結びつきも強く残っています。曲がりなりにも商店を開いたことで、その仲間入りを果たしたといえます。そこでは、折に触れて愛すべきお節介なおかみさんたちとぶっさらぼうなおちゃんたちが様々なアドバイスをくださいます。これは考えてみると長い経験とノウハウに基づく説得力あるコンサルティングといえます。また、おかみさんたち、お客様と若者たちとのコミュニケーションは双方にとって意義深いものになっています。

2009年10月には野菜の宅配を始めました。横須賀市内でも上町近辺には多くのお年寄りが住んでいます。例えば独居老人の安否確認（というと偉そうですが）や、若者とお年寄りの交流を図ることも大きな目的の一つになると考えています。

2010年6月には書店の半分を改装しコミュニティスペースとしてのカフェ＝「haru cafe」を開店しました。商店街の中心の立地は人が集う場として最適です。

7年間に及ぶ市民活動の蓄積は経済活動としてよりも市民活動の視点からの起業、という発想が強くあります。子ども・若者たちと

地域を結ぶものは何か、経済的な課題はありますが、今後解決していけばよいでしょう。何よりもまず、地域の中には必要とされていても取り組む人がいない多くの仕事があります。それでは誰が担い手になればいいのでしょうか。行政でしょうか、あるいは町づくりのNPOでしょうか。



＜新装開店した「haru cafe」店内＞

新しい生き方の模索

若者たちがいるだけで頼られる大きな理由になります。若者たちにとっても活躍の場になります。それが事業になれば、そしてそれを事業にしていけばいいのではないのでしょうか。当法人の事業はまだ7年間しか経っていませんから未熟です。しかしながら7年間事業を行ってきた事実がそこにはあります。大きな事業ではないかもしれませんが、地に足をつけた活動をしている実感があります。若者たちの活動が一つの事業になり、新たな生き方の道標になることを目指し、今後も活動し続けていきます。

NPO法人 アンガージュマン・よこすか

(アンガージュマンとはフランス語で「社会参加」です)

電話 (046) 801-7881

<http://engagement.angelicsmile.com/>